

# はじめの 図画工作

小学校 学習指導要領（平成29年告示）解説 図画工作編 平成29年7月

[https://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/micro\\_detail/\\_\\_icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387017\\_008.pdf](https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387017_008.pdf)



「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 図画工作 令和2年3月

[https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326\\_pri\\_zugak.pdf](https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_zugak.pdf)



令和3年  
3月

奈良県教育委員会事務局  
学校教育課

# 図画工作について…

A先生の  
相談

図画工作で扱う題材は無数にあります。何を考えればよいのか、発達段階に見合った題材は何か、いろいろ考え、悩んでしまいます。様々な材料や用具、技法等についても知識が必要ですし、何より実際に製作する技術がないと指導に自信がもてません。

## ●みんな、悩んでいます。

図画工作の指導に苦手意識をもつ先生は少なくないようです。令和2年度に行った、採用3年目までの先生方を対象にした、「図画工作に関するアンケート」には、次のようなキーワードがありました。

不安 難しい 心配 悩み  
迷う 困る 苦手  
分からない

誰にでも、得意、不得意があります。一人で図画工作の内容全てに対応するのは難しいことです。みんなで協力してつくり上げていく姿勢が大切です。

## 「図画工作は楽しい」

図画工作の指導が得意な先生や、研究熱心な先生もたくさんいます。しかし、それらの先生だけに6年間の図画工作の学びを全て任せるのではなく、児童と関わる全ての先生が指導に携わるようにしましょう。

アンケートには、多くの疑問や質問等が寄せられていました。図画工作の授業に対する不安が少しでも和らぐよう内容を整理してお伝えしていきます。児童も先生も楽しみながら活動できるといいですね。

## ●何を考えればいいのか？

どのような題材を、どのような順序で扱うかについては、児童の様子などから、各校の実態に合わせて計画を立てます。内容については、左図のように学習指導要領で定められており、必ず取り入れなければなりません。

## 指導内容（学習指導要領）

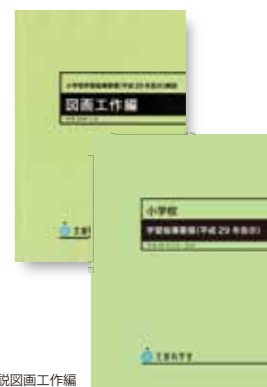
A表現		B鑑賞	
絵	立体	工作	造形遊び
※必要がある場合 独立して行う。			

## 相互の関連を図る

## 「学習指導要領」と「学習指導要領 解説」

「学習指導要領」は全国どこの学校でも一定の水準が保てるように、文部科学省が定めている教育課程の基準です。各教科等の「学習指導要領 解説」は、「学習指導要領」の意味や解釈など詳細について説明するために文部科学省が作成しています。

文部科学省：小学校学習指導要領  
小学校学習指導要領解説図画工作編



## ●学年にあった題材とは？

どの学年で、どの題材を扱うかを、より具体的に示したものが教科書です。文字だけの「学習指導要領」と違い、図版が多く視覚的に捉えやすくなっています。

教科書は「学習指導要領」に示された教科、科目等に忠実に作成され、文部科学省の検定を受けたものです。教科書には「使用しなければならぬ」という使用義務があります。教科書の無償給与の趣旨を踏まえ、有効な教科書の活用を心がけることが求められます。

図画工作の教科書には、開隆堂出版と日本教出版の二つの発行者のものががあります。それぞれに特徴がありますが、どちらも児童の発達段階への適応性、教材の客観性・公正性・中立性、内容の正確性があります。各学校で使用する教科書は、採択により決定されます。

# 教科書を活用しましょう。

教科書を生かした効果的な授業展開を！

## 多様な題材

様々な素材を用いた作品作り、様々な場所での活動等が取り上げられています。

## 豊富な図版

児童の作品や活動の様子、作家の作品や伝統的な工芸品等、様々な図版があります。



## 指導内容の明示

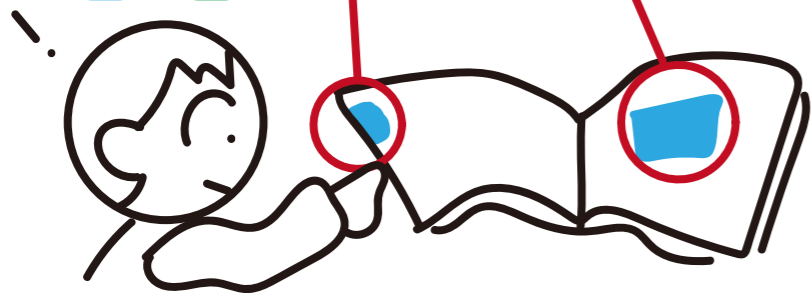
題材を内容ごとに五つに分類し、分かりやすく示しています。

絵 立体 工作  
造形遊び 鑑賞

## 学習指導要領への対応

題材ごとに学習指導要領の三つの柱に対応させた観点を示しています。

「知識及び技能」  
「思考力、判断力、表現力等」  
「学びに向かう力、人間性等」



## 材料や用具の扱い

材料や用具等、技能についての解説を学年に応じて示しており、安全についての内容もあります。



## 文部科学省「図画工作科で扱う材料や用具」

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/zukou/index.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zukou/index.htm)

文部科学省のウェブサイトには、材料や用具について紹介されています。各材料や用具ごとに「授業の前に」、「授業中は」、「アイデア&アドバイス」で構成され、授業を円滑に進めるための工夫や、安全管理、準備や片付けの効率化につながるポイント等が掲載されています。



出典：文部科学省ホームページ

# 評価について…

B先生のつぶやき

評価について、どのように進めるべきか悩んでいます。自分自身が絵や工作が苦手なので、作品の評価のポイントが分かりません。できるだけ客観性をもたせながら評価しようと思いますが難しいです。どうしても主観が入っているような気がして、周りの先生に何回も確認しながら評価しています。

## ● 評価の基本的な考え方は？

アンケートには、評価についての悩みが多くありました。図画工作では題材ごとに評価する内容が変わるといふ印象が強いからかもしれません。しかし、基本的な考え方は他の教科と同様で、学習指導要領の目標や内容が評価の基本となります。「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」という育成を目指す資質・能力を基に、評価の観点も整理されました。評価の観点は「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点となっています。

## ● 評価の手順は？

評価を進めるに当たっては、評価規準が重要です。評価規準の作成には、「評価の観点及びその趣旨」と「学年別の評価の観点の趣旨」を確認しましょう。その上で、下の表で示した学習指導要領の各学年の内容と目標を評価規準に取り入れていきます。題材に応じてより具体的な評価規準を作成することで、明確な評価を行うことが可能となります。

左に評価の進め方の例を示しました。計画的に指導と評価を一体的に行うことが大切です。指導計画を立てる時には必ず目標も合わせて設定します。育もうとする資質・能力のための指導と評価を意識しましょう。

### 評価の進め方（例）

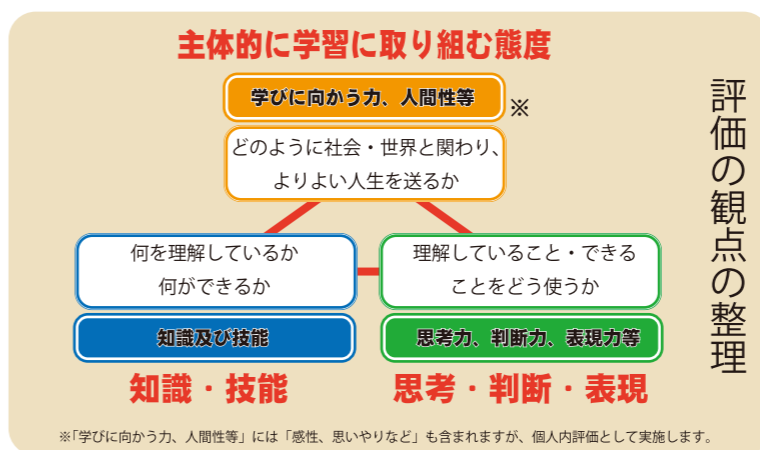
- ① 題材の目標を作成する
- ② 題材の評価規準を作成する
- ③ 「指導と評価の計画」を作成する
- ④ 授業を行う
- ⑤ 観点ごとに総括する

## 学習評価の基本的な考え方

- 教師の指導改善につながるものにする。
- 児童の学習改善につながるものにする。
- 必要性・妥当性が認められないものは見直す。

## ● 作品の評価は？

観点別に学習評価を行う際に、作品だけでは全ての観点を見取ることが困難な場合が多いのではないのでしょうか。実際に作品に表れない、学びの過程においても児童は創造的な活動を行っています。授業中の発言や行動、アイデアスケッチやワークシート等も評価材料として活用し、総合的に評価を進めましょう。作品の評価については、具体的な評価規準に基づいて、作品から見取ることができる部分とそうでない部分を整理して考えてはどうでしょうか。



## 各学年の内容（「知識及び技能」及び「思考力、判断力、表現力等」における指導内容）と目標（「学びに向かう力、人間性等」）の整理

育成を目指す資質・能力	※	〔第1学年及び第2学年〕	〔第3学年及び第4学年〕	〔第5学年及び第6学年〕
「知識及び技能」	「知識」	共	自分の感覚や行為を通して、形や色などに気付くこと。	自分の感覚や行為を通して、形や色などの感じができること。
	「技能」	表	造形遊びをする活動を通して、身近で扱いやすい材料や用具に十分に慣れるとともに、並べたり、つないだり、積んだりするなど手や体全体の感覚などを働かせ、活動を工夫してつくること。 絵や立体、工作に表す活動を通して、身近で扱いやすい材料や用具に十分に慣れるとともに、手や体全体の感覚などを働かせ、表したいことを基に表し方を工夫して表すこと。	造形遊びをする活動を通して、材料や用具を適切に扱うとともに、前学年までの材料や用具についての経験を生かし、組み合わせたり、切ってつないだり、形を変えたりするなどして、手や体全体を十分に働かせ、活動を工夫してつくること。 絵や立体、工作に表す活動を通して、材料や用具を適切に扱うとともに、前学年までの材料や用具についての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表すこと。
「思考力、判断力、表現力等」	表	表	造形遊びをする活動を通して、身近な自然物や人工の材料の形や色などを基に造形的な活動を思い付くことや、感覚や気持ちを生かしながら、どのように活動するかについて考えること。 絵や立体、工作に表す活動を通して、感じたこと、想像したこと、見たいことを見付けることや、好きな形や色を選んだり、いろいろな形や色を考えたりしながら、どのように表すかについて考えること。	造形遊びをする活動を通して、身近な材料や場所などを基に造形的な活動を思い付くことや、新しい形や色などを思い付きながら、どのように活動するかについて考えること。 絵や立体、工作に表す活動を通して、感じたこと、想像したこと、見たいこと、見たいことを見付けることや、表したいことや用途などを考え、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかについて考えること。
		鑑	身の回りの作品などを鑑賞する活動を通して、自分たちの作品や身近な材料などの造形的な面白さや楽しさ、表したいこと、表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げること。	身近にある作品などを鑑賞する活動を通して、自分たちの作品や身近な美術作品、製作の過程などの造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げること。
	共	形や色などを基に、自分のイメージをもつこと。	形や色などの感じを基に、自分のイメージをもつこと。	形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと。
「学びに向かう力、人間性等」		楽しく表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しい生活を創造しようとする態度を養う。	進んで表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養う。	主体的に表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養う。

※（共…〔共通事項〕、表…A表現、鑑…B鑑賞を示す。）

# 指導ごっこ…

C先生の  
悩み

授業の計画を進めるに当たり、時間の配当をどの程度にすればよいかいつも悩みます。児童の進み具合も個人差がありどうすればよいか悩みます。参考作品の提示の仕方や声かけなどにも自信がもてません。児童の発想を大切にしたいと思いつつも、主観で対応してしまいます。

## ● 計画はあくまでも計画

年間指導計画を立てる段階で題材ごとの時間配分を想定します。しかし、児童の活動は時間どおりに進むとは限りません。発想に時間がかかったり、夢中に一生懸命取り組んで思いがけず早く完成することもあります。指導計画を見直したり児童を観察したりして、必要に応じて、その後の題材との関係を考えながら調整しましょう。その際、児童には理由を丁寧に説明し、見直しをもって取り組ませることも大切です。時間を意識するあまり、児童が資質・能力を発揮する機会を見失わないようにしましょう。

## ● 完成した児童への声かけ…

個人差がありますので、当然早く作品が完成する児童もいます。できるかぎり時間を有効に活用し、図画工作の資質・能力に関わる活動を提示して、力を伸ばすことを考えましょう。取り組んだ題材の技能を生かした技術的なものや、発想を生かした作品など、学習した成果を小さな作品に残すことも可能です。学年によって扱う内容が変わるので、いろんな活動があります。一人で作るのは大変ですが、先生同士で、アイデアをもち寄るなどして、指導の引き出しを増やしていきましょう。

## ● 図画工作の難しさ

「図画工作の授業に自信がもてない。」という先生の声を聞くことがあります。図画工作における表現には、いわゆる正解というものがなく、児童の数だけ表現に多様性があるので、それらをどう判断してよいか迷うことは当然のことだと思います。児童が作品や活動で表現したものが0点になるところはありませぬ。何もないところから児童が生み出したものに、先生がどれだけよいところを見つけてあげることができるか、という点が図画工作の面白いところでもあります。難しいところであるかもしれませんが。

## ● 造形的な見方・考え方

児童の「よいところ」はどんな本人や周りの児童、保護者や他の先生に伝えてください。「褒める」言葉がさらに意欲を高めることとなります。ただし、教科の評価については図画工作の目標や評価規準に基づいて行わなければなりません。「よいところ」から教科の評価に関わる部分を確認し、それ以外の感性や思いやりなどについては、評価の対象外になります。図画工作の評価は造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の形の形や色などと豊かに関わる資質・能力が対象になります。



## 造形的な見方・考え方

図画工作科の特質に応じた物事を捉える視点や考え方

感性や想像力を働かせる。

対象や事象を、形や色などの造形的な視点で捉える。

自分のイメージをもちながら意味や価値をつくりだす。

## みんなで図画工作を楽しむ…

児童が楽しく図画工作に取り組むには、先生が楽しむことが大切です。

不安を抱えながら楽しむことは難しいものです。分からないことはみんなで考え、一人でできないことはみんなで協力して取り組みましょう。人と人とのつながりの中で、児童に図画工作で育む資質・能力を付けていきましょう。

## 目の前の児童の姿から…

実際に児童に関わる先生が自信をもって図画工作の取組を進めていきましょう。

身近で児童のことを把握、理解している先生こそが、効果的に児童に合わせた題材を設定・展開することが可能です。児童の経験や興味・関心等を踏まえ、目の前の児童の姿を思い浮かべながら題材を考えましょう。

## ● 参考作品の提示のポイント

最初に参考作品を見せると、それに似たものが多くなってしまうことがあります。参考作品は一目で題材の雰囲気分かるという利点がありますが、児童が自由に発想する機会を減らしてしまうこともあります。どのような参考作品をいつ提示するか、目的を明確にしておくことが必要です。参考作品には先生が作成したもの以外に、前年度の児童の作品や他学級の作品もあります。教科書を参考にしたり、様々なメディアを利用したりすることも考えられます。また、完成したもののだけでなく、途中の段階のものや、部品を示すことも時には効果的かもしれません。見せないという選択肢もありません。題材の目標に合わせて最適な方法や時期を考えましょう。先生が参考作品を作成することは、教材研究にもなり児童の活動が想定しやすくなり、児童の活動が想像しやすくなりますが、時間がかかることもありますので、必要に応じて検討してください。

## ● 児童への声かけのポイント

児童への声かけも、参考作品の提示と同様に時期や内容を考える必要があります。大切なのは、声をかけることで児童が自己肯定感をもち、学習を深めることができるようになることです。しかし、万能な言葉があるわけではありません。児童をよく観察し、その姿からかける言葉を探しましょう。その際は共感的に児童に寄り添い、具体的に分かりやすい言葉で先生の思いを伝えましょう。

**観察**

活動・発言・記述・作品  
児童の頑張り  
大切にしていること

**声かけ**

共感的に理解を示す  
分かりやすく、具体的に  
必要に応じた時期と内容